

学 校 教 育 目 標	自他を大切にしてい主体的に学び、生きる力をはぐくむ児童の育成
目 指 す 学 校 像	分かる授業を追求する「楽しい学校」 自他を大切にし、感動する心を磨く「優しい学校」 進んで運動し、心も鍛える「元 気な学校」 児童・保護者・地域の思いを大切にする「愛される学校」持続可能な働き方を工夫し、資質向上を図る「働き がいのある学校」
重 点 目 標	1 主体的・対話的に学び続ける児童を育成するため、学習者主体の授業改革を実現する。 2 誰1人取り残さない教育を実現するためのカリキュラム・マネジメントを充実させる。 3 コミュニティ・スクールとスクールサポートネットワークを一体的に推進する。 4 校内の危機管理の意識を高め、全児童に自助の意識を向上させる。 5 本校の課題に応じた実効性のある校内研修を充実させ、教職員の資質・能力を向上させる。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番 号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	〈現状〉 ○児童がタブレットを活用し共同編集等を行うこと とで、友達を考え方を自分の考えに生かすなど 協働的に学ぶ様子が見られるようになってきた。 ○学校課題研究を中心に、各教科等で児童に付け たい力を明確にした上で、指導方法の工夫改善 を進めている。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査、また市学習状況調査 の結果、国語・社会・算数・理科において市・ 全国平均と比べて、10pt程度低い項目がある。	・学習者が主体 となるような 指導方法の工 夫改善	①学校課題研究として、全国学力・学習 状況調査の結果を分析し、「個別最適 な学びと協働的な学びの一体化」を軸 に研究を進める。 ②児童がスクールダッシュボードによる 授業の振り返りを確実に行うことで指 導と評価の一体化を図る。	・教職員の学校評価「授業改善が実践で きたか」の肯定的回答の割合を9割と し、「特にそう思う」の肯定的回答の 割合を向上する。 ・市学習状況調査の主に国語・算数の平 均正答率を向上する。					
		・基礎的・基本 的な知識・技 能の確実な定 着	①学力向上タイムの効果的な運用、家庭 学習の取り組ませ方等について研究 し、学校全体で取り組む。 ②市教委の学力向上カウンセリング研修 を実施し、学力向上に向けた効果的な 手立てを研究する。	・学校評価の家庭学習の取り組み方の質 問において「よく取り組んでいる」の 割合を3割程度上昇させる。					
2	〈現状〉 ○学校評価における保護者・教職員の「いじめの ない学校づくり」に係る項目での肯定的な回答 については、共に8～9割程度であった。 ○教育相談主任、特別支援教育コーディネーター を中心に、SC、SSW を交えながら支援体制を整 えている。 〈課題〉 ○発達指示的生徒指導の充実を図り、ユニバーサ ルデザインを踏まえた授業、学級経営を実践す る。 ○いじめ等の問題については、覚知後、迅速に対 策委員会を開催し、組織的な対応を徹底する。	・児童一人一人 に応じた丁寧 できめ細かい 指導、支援体 制の充実	①いじめ問題等に対して、いじめ防止基 本方針に基づき、組織的に対応す る。 ②日常の児童観察、個別面談、心と生活 のアンケート等で得た情報を共有 し、個別の支援・指導に役立てる。	・学校評価の「いじめのない学校づく り」に係る項目で、保護者の肯定的な 回答の割合を9割程度とする。 ・学校評価の「心と生活のアンケートの 結果を基に児童への対応ができたか」 の項目で、教職員の肯定的な回答を9 割以上とする。					
		・発達指示的生 徒指導の充実	①ききょうルーム（太田小 so-la ルー ム）を効果的に運営し、個別の支援を 充実させる。 ②児童委員会等によるいじめ撲滅の取組 等を計画的に実施し、児童の自発 的・主体的活動を発達させる。	・ききょうルームを効果的に運営し、個 別の支援の充実を図ることができた か。 ・いじめの予防に係る活動に主体的に取 り組む児童の育成を図ることができた か。					
3	〈現状〉 ○岩槻小・岩槻中と本校の3校合同で、学校運営 協議会を組織し、岩槻中学校区で児童・生徒に 身に付けさせたい力の具現化について熟議を重 ねている。 ○児童による地域行事の積極的な参加の質問にお ける肯定的な回答は8割程度であった。 〈課題〉 ○コミュニティ・スクールの意義や効果、必要性 等について、学校（職員・児童）・家庭・地域 で理解を深めていくことが重要である。	・地域や保護者 と連携・協働 を図った教育 活動の推進	①校長講話・研修・地域講師の授業等を 通して、教職員・児童・保護者にコミ ュニティ・スクールに対する理解を深 める。 ②学校HP、スクリレ等を通して、本校 の学習支援・防犯・図書等のSSN ボラ ンティアの取組を拡大していく。	・学校評価における「地域に開かれた学 校づくりに努めているか」の項目で、 教職員・児童・保護者の肯定的な回答 の割合を9割以上にする。					
		・地域を愛する 児童の育成	①カリキュラム・マネジメントを意識 し、地域講師を招聘しての体験的な学 習の充実を図る。 ②地域行事の案内を積極的行い、児童の 参加を促す。	・市学習状況調査における地域の活動に 参加できたかの項目において、児童の 肯定的な回答の割合を8割以上とす る。					
4	○学校施設・設備の安全の確保については、教職 員で毎月点検を行い、組織的に対応している。 施設不備による児童の事故事案は発生していな い。 〈課題〉 ○学校施設における修繕が必要な個所が複数ある ため、予算や優先度を考慮し対応する必要がある。 ○児童が自分の身を守る行動を習慣できるよう、 安全意識を高めることが重要である。	・通常教室及び 特別教室等の 安全管理の徹 底	①担任及び管理職による教室等の定期的 な目視・安全点検を確実に実施する。 ②理科の実験など、授業の内容に応じた 安全指導・安全対策等を徹底する。	・通常教室及び特別教室の整理整頓、安 全な環境づくりを実施することができ たか。 ・教科等における安全指導を徹底できた か。					
		・自助の意識を 高める安全教 育の充実	①危機管理マニュアルを基に、計画的に 避難訓練、交通安全教室、学校保健委 員会等を実施する。 ②授業中・その他活動状況に応じた訓練 を実施し、訓練後の振り返りを確実に 行う。	・学校評価における安全指導の項目で肯 定的な回答の割合を8割以上とする。					
5	〈現状〉 ○学力向上、人権教育、いじめ対策、特別支援教 育等、教育に係る様々な課題についての研修を 計画的に実施している。 ○中・高学年での教科担任制実施により、担当す る教科について、より深い教材研究を行うこと ができています。 〈課題〉 ○自身のキャリア段階に応じて、資質能力の向上 に係る研修会等に積極的に参加することが求め られる。	・業務改善と校 内研修の充実 により、教職 員の資質・能 力を向上させ る。	①教科担任制等、教員の専門性を生かし た教育活動を進める。 ②人事評価を活用し、教職員一人ひとり がキャリアアップできるよう、学校経 営方針とリンクした個人目標を設定さ せ、積極的に学校運営に参加させる。 ③校内研修を積極的に実施し、教員によ る課題別のOJTを推進する。	・教職員の意識調査における学校及び自 身の業務改善の項目で「負担軽減にと てもつながっている」の割合を2割程 度上昇させる。 ・各々のキャリアを意識して、互いに資 質を高め合う教職員集団を実現する。					

